

◎特集 一三—一四世紀はアジア史の分水嶺か？◎

緒言

近年認知されるようになった「海域アジア史」という研究領域は、分断された個別の国家や地域の集合体ではなく、共通する環境を緩やかに共有する海域を取り巻く世界（「海域世界」）としてアジアを捉える点に特徴がある^①。したがって、本来、海域アジア史の視点から見れば歴史像は本来、断地域史・断時代史的な偏見には捉われないはずである。しかしながら、実際には、各地域や各時代に偏在するイメージや仮説の影響を強く受ける可能性がないわけではない。海域アジアという場が設定されていても、それぞれの研究の方法論が根ざす分野の通説や常識が全くの同一でない以上、海域アジア史の枠組み内でも各研究者の対話は必要不可欠であるといえよう。ここでは、海域アジア史内で対話を必要とする一事例として、一三—一四世紀の環インド洋・ユーラシア交流を取り上げる。言うまでもなく、この時代にユーラシア・海域アジアに大きなインパクトを

与えた一要因としてモンゴル帝国の存在が挙げられる。しかしながら、モンゴルの影響に対する各地域・各時代の評価は一定ではなく、それぞれの歴史観やナショナルリズムの動向によってその評価は大きく変容する。

例えば、アンソニー・リードが唱えた「通商の時代」^② Age of Commerce 理論は、それ自体は東南アジア史・海域アジア・グローバル・ヒストリーなどの分野に大きな影響を与え、さらには、「初期通商の時代」^③ Early Age of Commerce 論を派生させた。それは、一五世紀から一七世紀にかけて東南アジア地域が東アジアとイスラーム・地中海・ヨーロッパ世界との結節点となり、東南アジア各地域の社会構造に影響を与えたとするリードの論に立脚し、それ以前の一〇—一三世紀にもその前駆的な貿易構造、ひいては社会変容が見られるとしたものである。ジェフ・ウエイドはその時代設定を一三〇〇年までとしているが、要

するに、一四世紀は「通商の時代」から見て谷間の時代とされているのである。この論は東南アジア史を中心に多くの研究者に支持されたが、その要因のひとつとして挙げられがちなのが、東南アジアにおける「モンゴル襲来」、そしてモンゴル支配下の中国における管理貿易の強化である¹⁾。

ただし、ユーラシア史やインド洋海域史（北海域アジア史）の立場からは、一三—一四世紀は「パクス＝モンゴリカ」Pax Mongolicaと呼ばれる東西交通の安定の下にイスラームやウイグルの商業ネットワークを巻き込んで遠距離貿易や文化交流が盛んになったという見方も存在する²⁾。このような時代性の評価における隔離はどこから生じるのであろうか。「初期通商の時代」論の時代性の評価に関しては、あくまでも東南アジアを立脚点としたものであり、地域横断的な観点からの歴史像とは異なるとの批判もある。そして、そのような批判はそのまま、「パクス＝モンゴリカ」の下にユーラシア交流が発展したと無条件に見なすモンゴル帝国期ユーラシア隆盛論にも当てはまる³⁾。本特集では、一三—一四世紀の海域アジア交流・ユーラシア交流の評価に対して、いわゆる東アジア史⁴⁾、考古学⁵⁾、ユーラシア史、イスラーム・地中海史、東南アジア史の各立場から相互に検証をおこない、多角的な視点から当該時代の

東西交流の全体構造および各視点から位相の相違について考察し、海域アジア史としてどのような歴史像を提示できるのか再検討してみたい。

参考文献

- Allsen, Thomas T. 1997. *Commodity and exchange in the Mongol Empire*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Allsen, Thomas T. 2001. *Culture and Conquest in Mongol Eurasia*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Biran, Michal. 2018. "Mobility, Empire and Cross-Cultural contacts in Mongol Eurasia (MONGOL)." *Medieval Worlds* 8: 135-54.
- Braudel, Fernand. 1995. *The Mediterranean and the Mediterranean world in the age of Philip II*. 2 vols. Translated Siân Reynolds. Berkeley: University of California Press.
- Chaffee, John. 2006. "Diasporic Identities in the Hsotorical Development if the Maritime Muslim Communities of Song-yuan China." *Journal of Economic and Social History of the Orient* 49/4:

395-420.

- Chaffee, John. 2013. "Cultural Transmission by Sea: Maritime Trade Routes in Yuan China." Morris Rossabi (ed.) *Eurasian Influences on Yuan China*. Singapore: ISEAS Publishing: 41-59.
- Christie, Jan W. 1998. "Javanese Markets and the Asian Sea Trade Boom of the Tenth to Thirteenth Centuries A.D." *Journal of the Economic and Social History of the Orient* 41/3: 344-81.
- Derek Heng. 2009. *Sino-Malay Trade and Diplomacy from the Tenth through the Fourteenth Century*. Athens: Ohio UP.
- Reid, Anthony. 1988. *Southeast Asia in the Age of Commerce 1450-1680: Volume One: The Lands below the Winds*. New Heaven: Yale University Press.
- Schottenhammer, Angela. 2009. *The East Asian "Mediterranean": Maritime Crossroads of Culture, Commerce and Human Migration*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Wade, Geoff. 2009. "An Early Age of Commerce in Southeast Asia, 900-1300 CE." *Journal of Southeast*

Asian Studies 40/2: 221-65.

- Wade, Geoff. 2013. "An Asian Commercial Ecumene, 900-1300 CE." In *Offshore Asia: Maritime Interactions in Eastern Asia before Steamships*. Edited Fujita Kayoko, Momoki Shiro and Anthony Reid, 76-111. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies.

桃木至朗(編) 二〇〇八『海域への史研究入門』東京：岩波書店。

(註)

- (1) Braudel 1995; 桃木至朗 2008; Schottenhammer 2009.
- (2) Reid 1988.
- (3) Wade 2009; Wade 2013, 76-111を参照。また Wade 2009に於ける論考への Christe 1998を参照。
- (4) Derek Heng 2009, 63-71.
- (5) 例として Allsen 1997; Allsen 2001; Chaffee 2006; Chaffee 2013; Biran 2018を参照。
- (9) 本号収録の桃木トメントを参照。

(本学文学部准教授)